

令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立花畑小学校 校長 小林 浩二

1 学校図書館の現状（今年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 9,903冊（蔵書基準冊数 8,760冊）／ 蔵書率 113.0%（前年度 104.8%）									
	② 新規購入図書 598冊 ／ 廃棄図書 189冊 ／ 増減冊数 409冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	2.3%	1.1%	8.3%	7.5%	12.1%	3.2%	2.2%	5.9%	1.9%	55.5%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：授業時、雨の日の中休み、読書旬間（11月）の昼休み・中休み（前年度からの変更なし）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 24冊（前年度：20冊）									
	③ 1か月に2冊以上読む児童 53.8%（前年度：50.6%）									

2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況（今年度総括）

- ①児童の読書に対する意欲を盛んにし、豊かな心情を育み学習の基盤となる言語能力を向上させる。
- ②多様な資料から情報を収集し、目的に応じた情報を選択して問題解決する能力を伸ばす。
- ③本の楽しさに触れ、日常的に本に親しむ態度を養う。
- ④学校図書館と校内の図書に関わる環境を整え、児童が読書をしたり本を活用したりする意欲を高める。

3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	①読みやすい読み物に興味をもち、楽しんで読書しようとする意欲を育てる。 ②学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用しようとする態度を育てる。									
今年度の成果目標					達成基準					
①学校図書館を使う授業により、本を手にする機会を増やす。 ②学校図書館の本や学級文庫の本を利用し、読書をする経験を重ねる。 ③学校図書館の利用の仕方について知る。					①各クラス月2回以上、読書等の授業を学校図書館で行う。 ②年間一人当たり20冊以上の本を読む。 ③全クラスで学校図書館オリエンテーションを行う。					
目標達成状況										
② 平均して月3回行うことができる。 ② 20冊以上の本を読んだ児童が63.8%であった。 ③ コロナ禍により、積極的に行えなかった。										
第2学年	①いろいろな読み物に興味をもち、楽しんで読書しようとする意欲を育てる。 ②学校図書館にある読み物以外の本に触れ、いろいろな情報源があることを知る。 ③学校図書館の利用の仕方を知り、きまりを守って利用しようとする態度を育てる。									
今年度の成果目標					達成基準					
①自分の興味のある本を探して、読書ができる。 ②興味をもったことについて図鑑や科学的な読み物を使って調べ、見つけたことを書き抜くことができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書ができる。					①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間一人当たり30冊以上の本を読む。 ③図鑑等を用いた基礎的な調べる学習の授業を2時間以上行う。					
目標達成状況										
② 平均して月3回行う。 ② 30冊以上の本を読んだ児童が58.2%であった。 ③ 平均して月2.5時間行った。										

第3学年	①いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ②学校図書館にある多様な資料に触れ、資料や情報を活用する力を育てる。 ③きまりを守り、すすんで学校図書館を利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本から関心を広げ、それに関連する本についても読書をする意欲を育てる。 ②辞典や図鑑等で調べて分かったことを、書き抜いたりまとめたりすることができる。 ③学校図書館の本の分類の仕方を知り、自分が読みたい本を分類から探してすすんで読書することができる。	①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間一人当たり30冊以上の本を読む。 ③教科と関連して辞典や図鑑等を用いた調べる学習の授業を4時間以上行う。 ④全クラスで本の分類に関する授業を行う。
目標達成状況	
② 平均して月3回行うことができた。 ② 30冊以上の本を読んだ児童が48.8%であった。 ③ コロナ禍により、積極的に行えなかった。	

第4学年	①いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。 ②学校図書館にある多様な資料に触れ、資料や情報を収集し活用する力を育てる。 ③きまりを守り、すすんで学校図書館を利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本だけでなく、今まで興味のなかった本についても読書することができる。 ②図鑑や辞典等の資料から課題に合わせて情報を収集し、分かったことを書き抜いたりまとめたりすることができる。 ③学校図書館の本の分類の仕方やラベルの見方を知り、読みたい本を分類から探したり正しく片付けたりすることができる。	①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間一人当たり30冊以上の本を読む。 ③教科と関連して辞典や図鑑等を用いた調べる学習の授業を4時間以上行う。 ④全クラスで本の分類・ラベルの見方に関する授業を行う。
目標達成状況	
② 平均して月3回行うことができた。 ② 30冊以上の本を読んだ児童が41.8%であった。 ③ コロナ禍により、積極的に行うことができなかった。	

第5学年	①適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ②多様な資料のなかから必要な情報を収集し活用することができるようにする。 ③きまりを守り、すすんで学校図書館を利用する態度を育てる。
今年度の成果目標	達成基準
①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことを、引用したり要約したりしてまとめることができる。 ③日本十進分類法について知り、学校図書館の利用の仕方についてより利用しやすい方法を考えることができる。	①各クラス月1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間一人当たり30冊以上の本を読む。 ③教科と関連して辞典や図鑑等を用いた調べる学習の授業を6時間以上行う。 ④全クラスで日本十進分類法についての授業を行う。
目標達成状況	
② 平均して月3回行うことができた。 ② 30冊以上の本を読んだ児童が36.2%であった。 ③ コロナ禍により、積極的に行うことができなかった。	

第6学年	①適切な読み物を選び、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする意欲を育てる。 ②多様な資料のなかから必要な情報を収集し活用することができるようにする。 ③きまりを守り、すすんで学校図書館を利用する態度を育てる。
今年度の成果目標 ①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書を行うことができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことを、引用したり要約したりしてまとめ、説明することができる。 ③日本十進分類法について知り、学校図書館の利用の仕方についてより利用しやすい方法を考えることができる。	達成基準 ①各クラス月1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間一人当たり30冊以上の本を読む。 ③教科と関連して辞典や図鑑等を用いた調べる学習の授業を6時間以上行う。 ④全クラスで日本十進分類法についての授業を行う。
目標達成状況 ② 平均して月3回行うことができた。 ② 30冊以上の本を読んだ児童が38.3%であった。 ③ コロナ禍により、積極的に行うことができなかった。	

4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

【蔵書・配架等に関すること】

- ①既存の寄贈本や新規購入図書を受け入れ、登録作業を前期中に完了させる。
 - ②校内で選書委員会を設置し、各学年の学習計画を念頭に置いた新規図書購入計画を作成する。
- <成果>

- ①9月までかかってしまったが、完了した。
- ②学校司書の先生とも話し合い、計画を作成し、次年度に備えた。

【学校図書館支援員との連携・協働】

- ①学校図書館オリエンテーションを図書館の利用の仕方にする授業等を、支援員と連携・協働して計画的に実施する。
- ②授業に必要な教材や資料について、積極的に支援員への相談や情報交換を行う。
- ③児童や教職員の学校図書館の利活用を促進するために、支援員と協働して蔵書や調べる学習に関する情報等を発信する「図書だより」を年2回以上発行する。

<成果>

- ①今年度はコロナの影響で蔓延防止の観点から効果的な授業などは行えなかった。
- ②教材において必要なものなどを踏まえ、学校司書の先生とも相談して行った。
- ③図書だよりを5月と11月に発行した。

【その他】

- ①支援員がいる曜日や読書旬間（6月・11月）の中休み・昼休みに学校図書館を開放し、どの学年の児童も本の貸出・返却をすることができるようにする。

<成果>

- ①今年度はコロナの蔓延防止の観点から積極的な貸し出しを行うことができなかった。

5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

昨年度のように開始時期が遅れることはなかったがコロナウイルス感染症対策を十分考慮したうえで学校図書館を運営できた。そのような状況下で、学校図書館支援員とボランティアさんが協力しながら読書活動を活発化させるために掲示の工夫やイベントを考え、年間を通して活動できた。

その成果として、貸出冊数が増え、読書に親しむ生徒の数が昨年度よりも増えた。また、調べる学習コンクールへの参加者も若干であるが増加してきている。

今後のコロナの動向を踏まえ、できる限りの範囲で児童間の活動を取り入れ、さらに良いものにしていくことで、学校図書館を、読書に興味の無い児童達に対して、読書の面白さを伝えていく必要がある。

6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

- ・コロナの影響でイベントなどを行うことができず物足りないものになってしまった。
- ・学校図書館の利用の仕方に関する授業を3年生以下の学年で行い、支援員と連携して計画的に行うことができた。
- ・授業に必要な教材や資料について情報交換を行い、図書の購入に反映させ、多少なりとも環境の改善ができた。

7 今後の展望 ー課題や問題点への改善・対応方針を踏まえてー

1か月に2冊以上読む児童が53.8%という結果を踏まえ、今後はその割合を高めるためにも学校図書館を活用した授業やイベントを多く実施し、児童が学校図書館に関わり読書に親しむ機会をより増やしていかなければならないと考えられる。また、学校図書館資料の整理や更新及び図書館内の展示や掲示の充実を図り、児童がより利用しやすい学校図書館環境を整備する。

例年同様、読書旬間（6月・11月）に向け、コロナ対策を行い、計画的に実施していきたい。また、図書委員会の児童がPCのクラスルームを使い、読み聞かせを行った。これにより委員会の児童も満足感をえることができた。また、モニター越しに繰り広げられる物語の映像や音読を聞くことで児童の本への興味をひきことができたので、継続して行っていきたい。